



## 鬼は内 福も内

2月到来。

陰暦2月の別称「如月きげつき」の語源は色々あるようです。

寒い冬が過ぎて陽気が訪れる時節ということから「気更来」、秋に黄落した草木が芽を張り出す月だから「草木張月」などといわれています。

この時期になると、プロ野球やサッカーのチームが一斉に九州、沖縄など南国各地でキャンプインします。

2月は「梅見月」ともいわれ、2月の花は梅です。各地から梅の便りが届いています。

「梅一輪一輪ほどの暖かさ」は服部嵐雪はっとりあらしゆきが詠んだ句です。梅が一輪咲きそれを見ると、かすかに一輪ほどの暖かさが感じられる。という意味です。

節分。

鬼を追い出すと家が困ってしまう。という人がいます。

鬼塚さん、鬼頭さん、九鬼さんなど名字に「鬼」のつく家では「鬼は外」以外の口上

もあるようです。鬼を追い出してしまったら縁起が悪いからとのことです。

商売をする家でも、鬼二大荷としてとらえ、大きな荷物が内（家・お店）に入らないと商売繁盛につながるため、「鬼は内」「福も内」というところがあるようです。

「来年のことを言えば鬼が笑う」といいますが、人間が先々のことを見通そうとしても無駄だよと、鬼があざけるだけだと人々は想像したのでしょうか。

「鬼おにと戯言ざれごと」とは親しくされるほど気味が悪くなると言う意味です。

「鬼に瘤こぶを取らる」は、こぶ取りじいさんの昔話からきた言葉で、被害がかえって利益や得になるとの意味のようです。

笑う鬼、涙を浮かべる鬼と、鬼にまつわる言葉はさまざま

で、鬼たちは人間の周囲に始終出没しているかのようです。何とも怪しく恐ろしい鬼たちを、豆の力で退治するという、節分のユーモラスな光景を童心に返り懐かしく思い出し、鬼たちに親近感さえ抱く節分の行事です。

時に、人の心に鬼は棲すみます。その鬼を豆と一緒に追い出すために豆をまき、心の中の鬼たちにはどんどん退散してもらって、良い一年にしたいものです。

節分の頃、親のまいた豆を兄弟で拾っていた頃を懐かしく思い出しています。



指宿市長  
豊留悦男